



2014.8.1▶11.3  
ヨコトリへ行こう  
Yokotriennale 2014



~  
T  
h  
i  
n  
k  
o  
u  
t  
o  
f  
t  
h  
e  
b  
o  
x  
~



会社まるごとギャラリー-2014

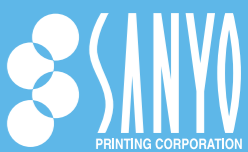
# 「H▲Z▲M▲のチカラ」展

アーティストネットワーク+コンパス

ANC3434 検索

事務局：山陽印刷株式会社内 〒236-0004 横浜市金沢区福浦2-1-13  
Tel.045-785-3434(代) <http://www.anc3434.com>

アーティストネットワーク+コンパス



「境界って楽ちん、でも境界って窮屈。

主観と客観、光と影、男と女、過去と未来。

そんな狭間からはみ出すと、

どういうカタチになるんだろう？」

そんな発想から生まれたのが今年のテーマです。

5人のアーティストが、作品展とワークショップで

ハザマからはみ出すチカラに迫ります！

【参加アーティスト】

田中清隆・笠原 出・加藤 崇・天野浩子・大森牧子  
★ワークショップに参加され、ご希望のあった方の作品も展示しました

【一般公開★予約制】

9/27・10/11・10/25・11/8・11/22・11/29  
★アポイント制で午前10時30分、午後2時よりギャラリートourを実施しました  
★ワークショップのある日は、10時30分～のみとなります  
★山陽印刷休業日・第1第3土曜日・日曜日・祝祭日

【主 催】

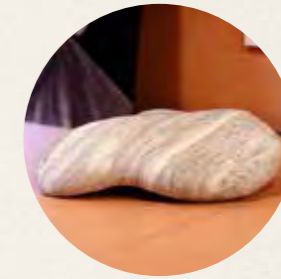
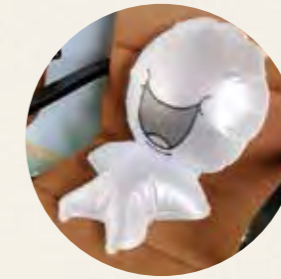
アーティストネットワーク+コンパス

【助 成】

公益財団法人 朝日新聞文化財団

【認 定】

ヨコハマトリエンナーレ2014応援プログラム



会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」  
～ Think out of the box ～ 展

“会社まるごとギャラリー2014「HAZAMAのチカラ」展を振り返って”

アーティストネットワーク+コンパス代表 秋山桂子

第2回会社まるごとギャラリー2014は、田中清隆さんのプロデュースにより、今年は5名の作家、田中清隆さん、笠原出さん、大森牧子さん、天野浩子さん、加藤崇さんをお招きして、作品展と子どもたちとのワークショップを開催させていただきました。

去る2014年9月27日(土)から11月29日(土)までの2か月間、社内は働く現場からアートを共有する空間に変化しました。

業務で手を動かしたり電話をしたりと忙しい中で、フツと見上げると作品が目に入る。心が一瞬ゆるみ、異次元にいざなってくれる素晴らしい感動を味わう事ができました。

加えて、今回の企画には、近隣企業の皆様にも協力していただきました。

天野浩子さんのインスタレーションのため、の会場を提供していただきました株式会社山装様をはじめ、株式会社横浜八景島様、株式会社横浜シーサイドライン様、株式会社坪倉

興業様、株式会社南部フーズ様、株式会社ニトー様、オープニングにお越し頂いた皆様を「アツ」と驚かせた、作品をモチーフにした和菓子を作ってくださった富貴様にも改めて感謝申し上げます。

2014年は横浜トリエンナーレの開催年で、横浜市文化観光局創造都市推進課トリエンナーレ担当様や横浜市芸術文化振興財団様にも広報でご尽力いただきました事も大変感謝しております。

働く場でのアートの取り組みを通じて、作家さんには今までとは違う困難などおありだったかと思いますが、働く者とのエネルギーの衝突が更なる飛躍につながれば嬉しく思います。

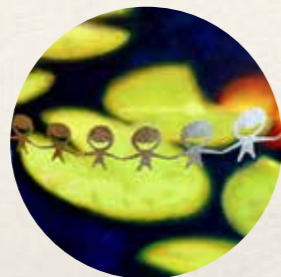
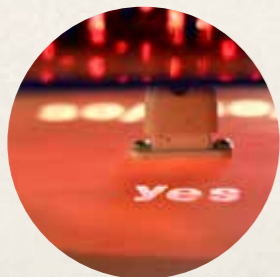
最後に、プロデューサーの田中さんをはじめ、作家の皆様、ご協力いただいた会社様、スタッフの湯浅さん、梶山さん、入佐さん、高井さん、川島さん、その他山陽印刷社員の皆さん本当にありがとうございました。

【謝 辞】

本展覧会開催にあたり、ご協力いただきました下記の方々に心より感謝の意を表します。

株式会社坪倉興業  
株式会社南部フーズ  
株式会社ニトー  
株式会社山装  
株式会社横浜シーサイドライン  
株式会社横浜八景島

(五十音順 敬称略)



01.02

# CONTENTS

02 ごあいさつ 秋山桂子

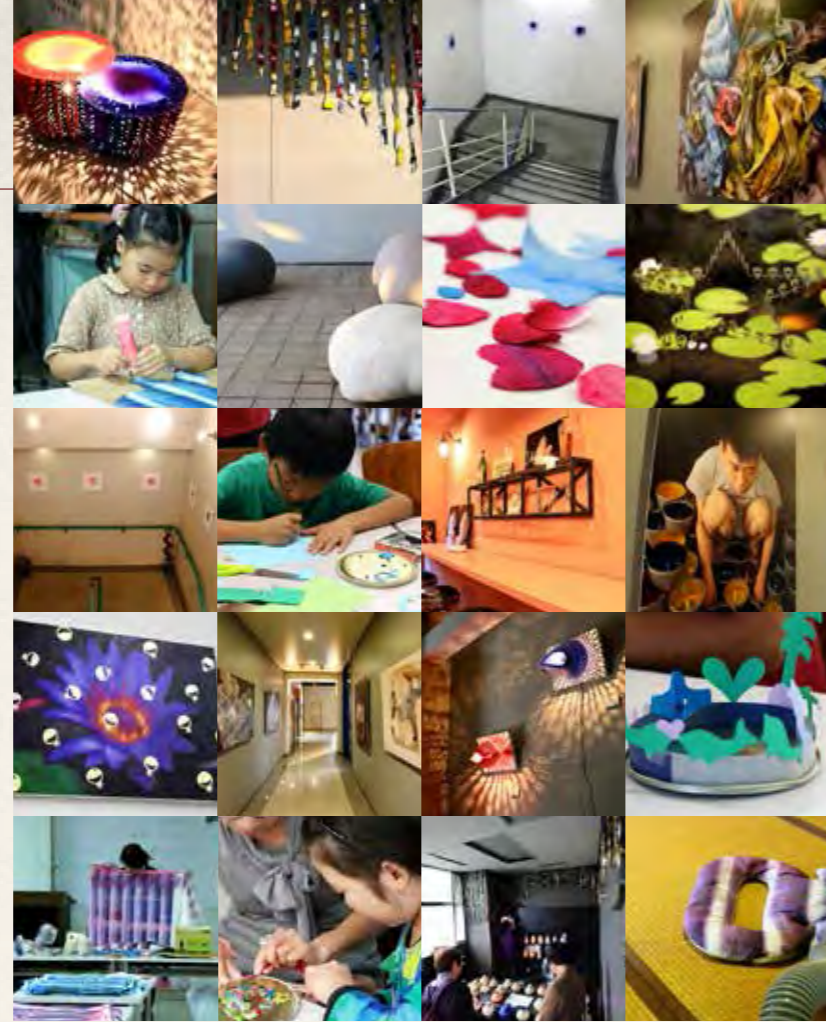
03 CONTENTS

04 館内のご案内

05,06 GALLERY/「HAZAMAのチカラ」は、あったか？  
田中清隆

07,08 GALLERY/「笑う精霊」から「笑う霊素」への還元  
笠原 出

09,10 GALLERY/「泉」、「鏡」、「ドレス」、そしてこの場所と日常  
加藤 崇



会社まるごとギャラリー2014

# 「HAZAMAのチカラ」展

11,12 GALLERY/「HAZAMA」へのかたち  
天野浩子

13,14 GALLERY/会社の中に存在すること  
大森牧子

15,16 SPINOFFGALLERY/株式会社山装様  
カタチの行進～水のかたち～ 天野浩子

17 WORKSHOP/「インク缶でつくる「カゲのダンス」」  
7/25(金)開催 田中清隆

18 WORKSHOP/「断裁紙と当て紙でつくる  
「びっくりマスクdeポン」」  
8/1(金)開催 笠原 出

19 WORKSHOP/「不織布を使って不思議な動物をつくる！  
「にょろにょろふわふわどうぶつえん！」」  
10/11(土)開催 天野浩子

20 WORKSHOP/「インク缶と不織布でつくる  
「クリスマスオーナメント」」  
11/22(土)開催 大森牧子

21 国際美術評論家連盟会員  
岡村多佳夫  
アーティストネットワーク+コンパスティクター  
湯浅佳子



# 館内のご案内



## 3F スタジオフロア

### このフロアのみどころ

今年の3階フロアとギャラリースペースは分野の異なるアーティストの作品群が異種格闘技戦を繰り広げる、さながらアートのアミューズメントパークです。そして、それぞれ異なるおもむきのミーティングルームと和室にもぜひご注目ください！  
もちろん、ワークショップに参加くださった皆さまの作品も「ご自身!」とともにパネルにして食堂に展示しています。さまざまなチカラがみなぎる未体験ゾーンをぜひお楽しみください。



## 2F 営業フロア

### このフロアのみどころ

正統派な展示の2階フロア。メインストリートとなる廊下と左右の階段室ではファンタジックに連なる作品が、不思議な物語を繰り広げます。  
そして、今年の社長室は昨年好評を博したインスタレーションと新作が絶妙にコラボレーション。調和と拮抗、皆さんの目にはどのように映るのでしょうか？ ぜひ感想をお寄せください。  
校正室には調度品として潜む作品があるのか無いのか……。こちらもお楽しみに！



## 1F 工場フロア

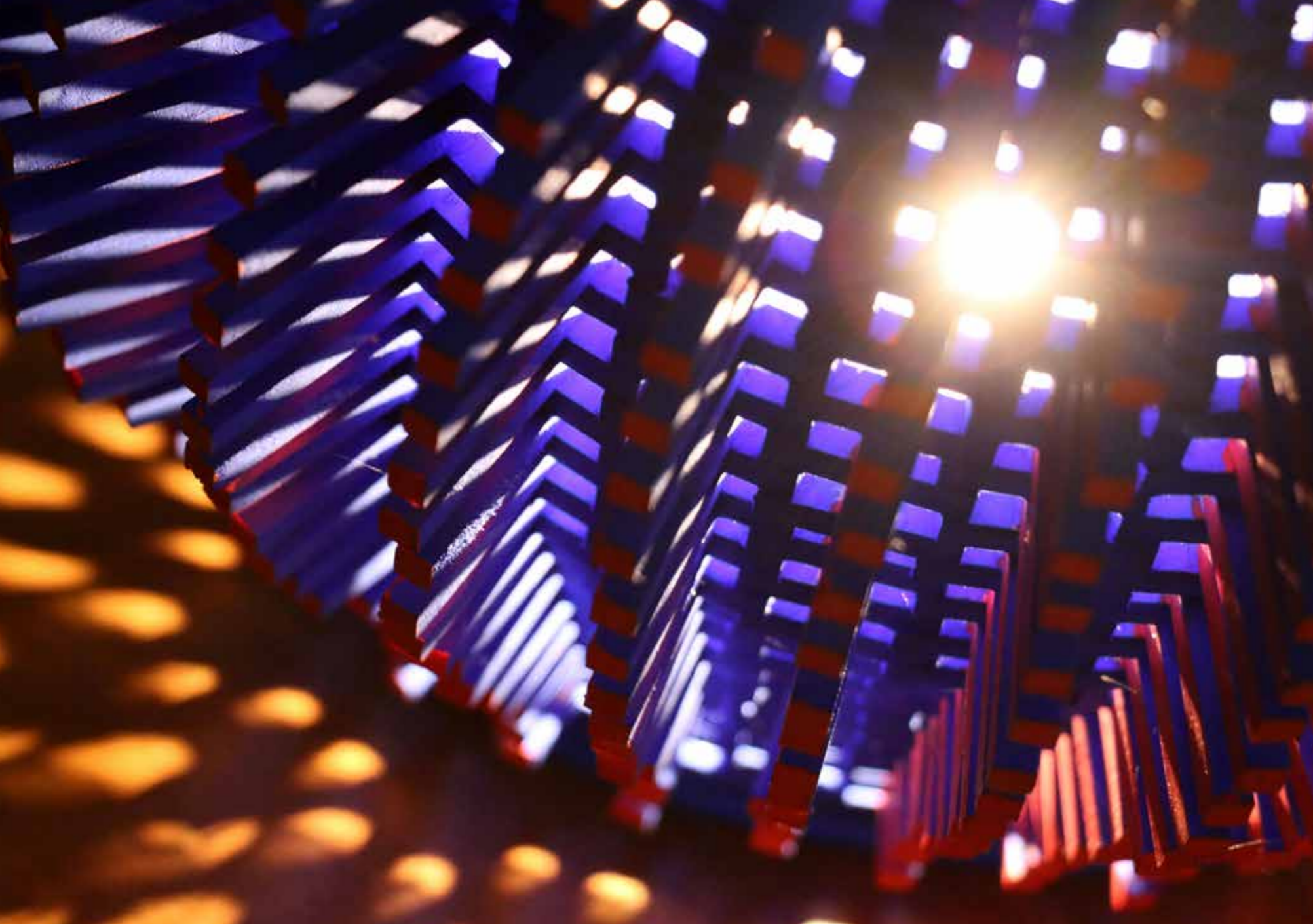
### このフロアのみどころ

豊富なフォルムをたたえた石彫群、そして自らも発光し、陰影のコントラストが強い生命力を感じさせる作品群がエントランスで皆様をお迎えます。  
印刷工場の面目躍如、好評を博した、構内展示も健在です。無機質な作業空間と異彩を放つアート作品が拮抗して生まれる「HAZAMAのチカラ」をご体感ください。  
すっかり夜の国道側の顔となった屋外作品「egg」もお見逃しなく！



屋外展示物

# 03.04



## GALLERY

### 「HAZAMAのチカラ」は、あったか？

山陽印刷株式会社 会社まるごとギャラリー2014

田中清隆

会社まるごとギャラリー(=まるぎゃら)は、2014年秋、第2回目の開催となりました。工場地域の会社スペースを開放して行った「OPEN THE DOOR」の続編で、すこしづつ変化させながら着実に足跡を残しているのではないかと思います。

今回のテーマ「HAZAMAのチカラ」は、何かと何かの距離や隙間・関係性・中間層などの多くを連想させます。人とひととの関わりは誰しもが常日頃感じる事柄のひとつであり、ものづくりの根底にあるもののひとつと感じています。今展で展開した作品群のアプローチもまた「見方・見え方」、見る「方向・距離」を楽しむものが主になっており、作品に出合う人がどのように楽しんでいただけるかを探っています。

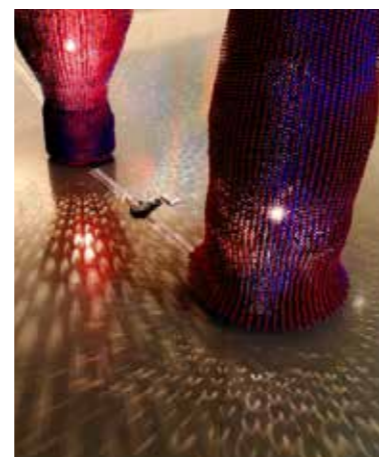
まるぎゃらの新たな展開を求めて目指したこのイベントでも「やれることと出来ること」、「思うことと出来たこと」等々、幾多の「HAZAMAのチカラ」の面白さと大変さを改めて感じた経験となりました。いつもの可能性を探りながらそれをどのように楽しみ、提供できるのか。参加していただいた多くの皆さんと共有できたことをうれしく思い、多々感謝です。

会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」 ～ Think out of the box ～ 展

“  PROFILE

” **田中清隆**  
KIYOTAKA TANAKA

「光」を素材としてとらえ、光とその他の素材との関係性を追究。手に取ることでできない「光」をどのように扱うのか、どのように感じてもらうのか、どのように楽しむのかなどが長年のテーマとなっています。今回の展覧会では、インク缶を用いたオリジナルの作品と、旧作で展示を構成しました。そのいくつかの異なる「光」の作品を、「影」も含めてご覧ください。



## 「笑う精霊」から 「笑う霊素」への還元

山陽印刷株式会社 会社まるごとギャラリー2014

笠原 出

『ふわりんぼ』はFluffy Limbo (ふわふわの不確定状態) という造語です。Limboは日本語で「辺獄」や「辺土」と訳されますが、個人的には「常世」(とこよ)のようなものと想像しています。「常世」とは永久に変わらない神域をさします。

睡蓮は蓮とは種類が違います。調べてみると蓮は仏教などに登場しますが、睡蓮は西洋の一部の神話を除き、実は東洋ではほとんど宗教的な意味を持たせん。大気と水面の間に存在は、天国でも地獄でもないLimboのようで、宗教的に誤解されがちな睡蓮が『ふわりんぼ』の世界観と合致したのでモチーフとして選択しました。

前作『かくれんぼ』は「現世」(うつしよ)に隠れるという観点で「笑う精霊」たちを「現世」での鬼火のようなものとして登場しましたが、『ふわりんぼ』は「現世」と「常世」の間でふわふわ存在するもの、ライプニッツのモナドや素数のように無限に現れては消える、ある種の「霊素」として現出させてみました。「笑う精霊」たちは「笑う霊素」となり、より還元されたように思います。



会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」 ～ Think out of the box ～ 展

“ PROFILE “

**笠原 出**  
IZURU KASAHARA

人間の感情表出の一つである「笑い」。その「笑い」と「場」の関係をテーマに作品を発表。近年は金色の「笑いの精霊」が登場する「ふわりんぼ」シリーズを手掛けています。今回はワークショップで笠原が撮影した参加者全員のポートレート写真と、過去に手掛けた立体、ペイントの作品を展示し会社のあちこちに「笑いの精霊」が登場しました。





## GALLERY

### 「泉」、「鏡」、「ドレス」、 そしてこの場所と日常

山陽印刷株式会社 会社まるごとギャラリー2014

加藤 崇

インクが入っていた4色の缶、それに嵌まっていた光る蓋、模様をついた水色の不織布。それぞれがもつ物としての役割とその物への意識、誰が必要とすることとそうでないこと、捨てられていくことと大切に残されていくこと、そして僕たちのあたりまえの日常と、ありきたりなもの。

この場所でできる廃材と、僕の身体はあらゆる接触を試みます。その接触の事実は、僕自身による僕自身の記録として残り、この場所でその記録が目に見える形となり、そしてこの場所に設置しました。

その異化された行為の記録は、この場所に関わる全ての人や訪れた人と僕とをつないでいく小さなきっかけとなっていくことを感じます。あたりまえの日常で、ありきたりなもの、この場所と僕の自宅、自身と他者、過去と未来、そして今を生きる僕達の希望や再生を呼び覚まします。

会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」 ～ Think out of the box ～ 展

“  PROFILE

” **加藤 崇**  
TAKASHI KATOU

「あたりまえの日常と、ありきたりなもの」をテーマに写真作品を制作。「食べる事・睡眠などの日常的な行為や、身の回りにある日用品との接触はすべて、僕自身による僕自身の記録として残していく。それが、僕と誰かをつなぐ、小さなきっかけとなっていくことを感じている」と言います。作品を通じてその異化された行動の記録を、追体験していただきました。



## 「HAZAMA」へのカタチ

山陽印刷株式会社 会社まるごとギャラリー2014

天野浩子

「HAZAMAのチカラ」というテーマに沿って、石の彫刻作品と不織布を使ったインスタレーション作品を展示しました。

私は普段、石で彫刻制作をしています。近年は「sleet」(みぞれ)と題した連作に取り組んでおり、その中から5作品を出品しました。

この作品はある冬の雪積から着想を得ています。雪で覆われた風景がすべて一体となった一つの凹凸に見え、そこからのイメージで何かを内包するような形、何かある感、気配のようなものを彫刻で表したいと思い制作しています。

インスタレーション作品「誰かから受け取ったものを次の誰かに渡す」は、山陽印刷の3階にある女子休憩室(6畳ほどの和室)の窓から見える隣の運送会社倉庫から着想を得ています。

生きる上で私たちが常に他者との間の存在であることと、倉庫が出发点から到着点への中継地点であるということがリンクしてこの作品を作りました。和室の座布団に座って窓から外を眺めることで、鑑賞者も作品の一部となります。



会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」 ～ Think out of the box ～ 展

“



PROFILE

”

天野浩子  
HIROKO AMANO

石の彫刻作品をメインに制作。空間に彼女の作品があることにより生まれる「場の一体感(もしくはその逆の違和感)」から、自己と他者のあり方を問う作品を作り続けています。今回の作品展では、前回の作品展で発表された社長室のインスタレーションと、石彫の作品を展示。そして山陽印刷を飛び出し、(株)山装様のエントランスにも、作品を展示しました。





## 会社の中に存在すること

山陽印刷株式会社 会社まるごとギャラリー2014

### 大森牧子

「会社で展示する」初めての経験でした。美術館やギャラリーなどでの展示とは違って、全く興味のない人の目にも触れることになるんだ。

「少しでも興味をもって欲しい、何か感じてほしいなあ」というのが最初に思ったことでした。今回のタイトルが「HAZAMAのチカラ」と聞いた時、私が意識したことは会社とアートの間にある狭間です。会社の中にアートを取り入れることによって、それを取っ払うことができればいいなと思いました。

ギャラリーまでの階段は、銅版画の作品を使っでの展示をしました。少しずつ変化を感じてもらえれば良いなと思い、同じ版で色だけを変えています。多色を使うのも初めてだったので、刷ってみた時の出来上がりも新鮮でした。反対側の階段には、不織布を使った作品と自分のいつもの作品を展示しました。不織布を使った作品では、不織布の色が、私の使っていない色だったり、布の質感が違って、こちらもまた新鮮でした。

今回、新しくトライできたことは良い経験となりました。ありがとうございました。今後にも生かしていけるような気がします。

会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」 ～ Think out of the box ～ 展

“  PROFILE “

**大森牧子**  
MAKIKO OMORI

布にアクリル絵の具を使った絵画作品や、銅版画でのドローイング作品の制作。「作品を制作することは自身の生活の一部となり、自分のいるところ・存在・空気を平面に表現している。」と大森は言います。今回は、不織布を用いた新作と、過去の絵画作品を展示しました。色を重ねることを繰り返すことによって表現された、微妙な心の中を感じてください。







## SPINOFF GALLERY

### カタチの行進 ～水のカタチ～

会社まるごとギャラリー2014関連展示

天野浩子

海に隣接した社屋のこのエントランスには水の気配が漂っています。私はそこからのイメージで、水をテーマに石を彫りました。その石と脱気盤や不織布を使ってこの空間を構成しました。

受付のプレートから続くのは「カタチの行進」です。展示ケースにあるストレーナの形状から発想を得て、日常に潜んでいるカタチを彫刻的に提示しました。脱気盤やストレーナ、不織布で作った立体、石の小さな彫刻、様々なカタチが列をなして行進していきます。

その列が続く先は「水のカタチ」です。水は雨や水蒸気、海などいろいろな形状を変えて常に循環しています。

この作品で使用しているドレンと脱気筒は本来ならば水を流したり湿気を逃がすために使うもので、水が通り抜ける道の役目をします。

器のように内側に空間のある石の彫刻作品と共に、循環の境目である水面をイメージして展示しました。

異なる素材によるカタチの出会いをご覧くださいました。

会期中は平日の午前中、山装様で一般公開しました。「 H A Z A M A の チ カ ラ 」 ～ T h i n k o u t o f t h e b o x ～ 展

#### 脱気盤、脱気筒、ドレン、ストレーナ／素材提供…株式会社山装

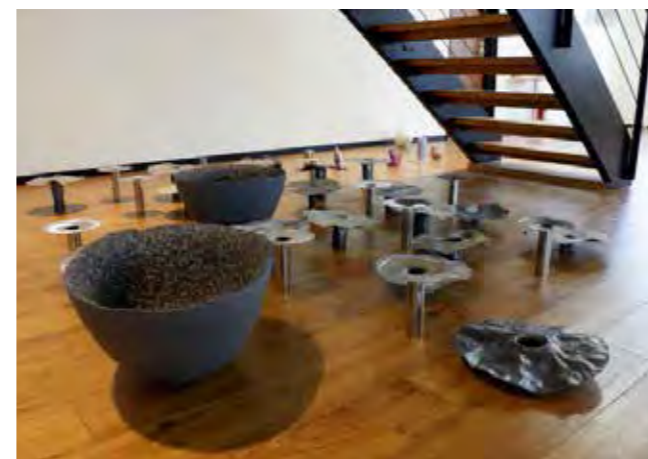
脱気盤、脱気筒は防水加工したコンクリート面の湿気を外部に排出する装置です。ドレンは屋上やベランダなどに溜まる雨水を流すためのもので、ストレーナはドレンのフタです。いろいろな部品の形状があります。

#### 不織布／素材提供…山陽印刷株式会社

印刷後の印刷機に通して、中に残ったインクを拭き取る布です。そのときに使ったインクによっていろいろな色になります。

#### 石

ふだん私が彫刻を制作するときに扱っている素材です。今回は御影石、大理石、小松石、砂岩、緑泥片岩を使っています。





光の玉づくり  
**カゲのダンス**  
 7/25(金)開催 田中清隆さん

さて、今回のワークショップの手順です。  
 カラーペーパーを切りぬいて、色々な、たくさん  
 のカタチを切り取り、インク缶のふたに取り付  
 けます。その上部で、こちらもインク缶のふたに  
 取り付けられたLEDライトをひかりのヨーヨーと  
 して動かしてみましょ。上や下に、そして回し  
 て見るとそこ出来るカゲたちが、伸びたり、ち  
 ぢんだり、ふわふわゆらり、揺れて、回ってダン  
 スで遊びます。  
 自身の「光」の作品制作の中から見つけた、「カ  
 ゲ」の楽しみ方の共有を試みました。今回も「ヒ  
 カリ」と「カゲ」の関係を単純で当たり前の行為

で感じてもらえるようにカラーペーパーを切り  
 抜き、カタチを作り、そこに「ヒカリ(LED)」を動  
 かしながら供給して、そのカタチの「カゲ」を周  
 りに映し出し、変化を楽しむ要素を展開しまし  
 た。カタチを作ることの喜びと、その後それに  
 使った「カゲ」の遊び方を考えて過ごす時  
 間を楽しむ提案です。今回出来上がったもの以  
 外にでも、更に楽しみ方を工夫でき、繋がり  
 を持つものとなります。参加していただいた皆  
 さんの創造性に期待して「ヒカリ」という素材を  
 身近に感じてもらえたら幸いです。

美術館や学校のワークショップ(以下WS)は経  
 験がありましたが、企業で行われるWSというの  
 は初めてでした。美術機関の教育普及として、  
 いわゆるWSという手法は最近では一般的にな  
 りましたが、企業で行う場合はどうなのかとい  
 う点に興味を抱きながら参加しました。  
 夏休みということもあり、小さな子供でも出来  
 そうな変身したいキャラクターを考えてもらい、  
 工場に出た試し刷りや裁断されたカラーペー  
 などを、ハサミのり、接着テープなどで絵具を  
 用いずに「仮面」を制作しました。  
 世界の民族仮面やアニメのキャラクター、自分

の作品などの映像を会場に流しながら作業を  
 し、最終的に出来た「仮面」を被った本人のポー  
 トレートを撮影/印刷、それを「HAZAMAのチカ  
 ラ」展に出展しました。それぞれ作品に対して  
 の思い入れがしっかり伝わる力作揃いで、短時  
 間での人の瞬発力に感嘆しました。  
 今回はお面=匿名性という意味で注釈をいれ  
 ませんでした。各作者の考えを写真に添える  
 べきだったかなと今は考えます。印刷ドキュ  
 メントの重要性や、企業のWSの意味性も実感  
 できたのは大変いい経験でした。関わってく  
 ださった皆様に感謝いたします。



断裁組・当て組づくり  
**マスキングdeパン!**  
 8/1(金)開催 笠原 出さん





不織布を使って  
不思議な動物をつくろう！  
**どうぶつえん！**  
10/11(土)開催 天野浩子さん

不織布を材料にソフトスカルプチャーの手法で動物を作りました。ソフトスカルプチャーとは、布やゴムなどの柔らかい素材で作られた彫刻のことです。作品を見るだけでなく、触っても楽しめるようなものにしたいと考えました。不織布は印刷機の中を掃除する時に使った布です。普段は捨ててしまう廃材ですが、インクの色が付いた布はまるで染色されたものようです。印刷の基本の4色、青、赤、黄、黒が縞模様やグラデーション模様になっています。

その不織布を同じ形に2枚切って貼り合わせ、中身に細かく切った紙を詰めて閉じます。

どんな形にしようか、形にあう不織布の色はどれだろう、それぞれが自分らしい作品になるよう考えつつ制作しました。

子どもから大人までいろいろな年代の方にご参加いただき、うさぎやキノコ、恐竜など様々な作品ができあがりました。色の違う不織布で飾りをつけたもの、10月に開催したのでハロウィンを意識したものなど、各々の工夫をこらした作品ができあがりました。

2時間ほどのワークショップでしたが、この機会を通して自分で作る楽しさを感じてもらえていたら嬉しいです。

ワークショップをやってほしいと言われて、私にできるかな、参加してくれる人はいるのか??と不安でいっぱいでした。何をやるのかなと思った時、まず「自分は色を使って制作しているので、色を使いたい。自分が作りたいものを作ろう」と思いました。その時に浮かんだのが、クリスマスの飾りです。出来るだけ自由に作ってもらいと思い、インク缶の蓋にランダムに穴を開けたものを用意しました。不織布は沢山の色で染まり、それだけでも作品。切ったり貼ったり伸ばしたり、編んでみたり、素材として扱いやす

くとても魅力的でした。大人と子供が力を合わせて作ったり、黙々と一人で作っていたり、隣の人の覗きこむ姿もあり、私も徐々に気持ちが高揚してきました。最後に全員の作品を並べた時は、たくさん色や形がならんで華やかになり、とても嬉しくなりました。廃材だけでもこんなになるんだ。すごいなあ。終わってみて、何とも言えない満足感。少し新しい自分を引き出したような気がします。沢山の刺激をもらい、とても良い経験となりました。このような機会を与えて頂き感謝しています。



11/22(土)開催 大森牧子さん  
**ハロウィンのお祭り！**  
不織布でつくる



## “会社まるごとギャラリーに寄せて”

国際美術評論家連盟会員 岡村多佳夫

「会社まるごとギャラリー」は印刷会社の工場も含めて、普段一般の人々が立ち入ることができない企業の建物の全体を使い、ギャラリー空間にするという興味深い試みです。もちろん選ばれた表現者たちにとっては本来の展示空間と異なるため戸惑いもあったでしょうが、2013年、2014年と行われた展覧会は、企画者の意図が作家それぞれに伝わり、工夫がなされ、心地よい空間を提示していました。

また、ワークショップの開催によって、単なる閉じられた展示だけではなく、表現へのかかわりを持たせ、どのように作品が成立するか、そして出来上がったものがいかに制作者の気持ちを豊かにし、さらなる世界を目指すかを参加者に理解させるとともに、地域

内外の人との交流の場を提供していました。

それらが続けることが重要であり、そしてその継続から生じる変化・革新は、それらにかかわった人々、表現者だけではなく、会社組織の人間、ワークショップ参加者等に新たな意識を生み出していくのではないのでしょうか。

展覧会のテーマは、「Open The Door」(2013年)、「HAZAMAのチカラ～Think out of the box～」(2014年)と扉が開かれ、そして関係が生まれ、新たな世界へと導かれていきます。そして、一企業の行為が周辺にも及びつつ、広がりを見せる、そのきっかけが2015年の展覧会に内包されることでしょう。今後も注目していきたいと思えます。

## 会社まるごとギャラリー「HAZAMAのチカラ」～Think out of the box～展

## “おわりに”

アーティストネットワーク+コンパス ディレクター 湯浅佳子

会社とはどんな場所、どんなところだろうかと改めて考えてみると、会社は組織があり事業部ごとに業務の役割分担をしながら仕事を効率的に行っています。

どの部署も目的は同じで、「どうしたらお客様に喜んでいただけるか」「売上を伸ばすためには」「効率的に業務を行うには」など、それぞれの役割を果たし、連携しながら業務を行っています。

しかし、皆で知恵を絞り、良い方向へ前進しているはずなのに、時には各々の立場の違いや、上司や部下、世代間のギャップによる食い違いなどがあり、衝突する事があります。このように、そびえたつ壁のような境界線が時には見え、時には消失するところが、会社という場所なのだろうと思いました。

そこで今回、境界線・境目などをテーマにす

ると面白い作品を制作されている方や、このテーマで挑戦してくださりそうな作家さんをお願いしました。

私が日々感じている「境界線」を超えるための直接的な答えが導かれていた訳ではありませんが、副題につけた「Think out of the box」日本語に訳すると「枠組みを超えて考える」という事が、日々の生活の中でも大事なことではないかなと思います。自分の心に「境界線」が見えた時、今回の作品展のように、いろいろな見方、捉え方、考え方があることを思い出して、クスッと笑う寛容さや相手に対しての思いやりを心に見出していただけたら幸いです。

この企画に尽力していただきました作家の田中清隆さん、大森牧子さん、笠原出さん、天野浩子さん、加藤崇さんには、心から感謝を申し上げます。



# 21.22